



A.A.M.T

秋臨技 だより

第94号

第 94 号

発行所
〒010-0013 秋田市南通築地 1-1
ファーストワン築地 2A
TEL・FAX:018 (825) 2116
E-mail:aamt-01@comet.ocn.ne.jp
一般社団法人秋田県臨床検査技師会事務所

発行人 藤田 秀文
編集主幹 渡辺 義孝
印刷所 石岡印刷所
電話018(884) 4771

第39回秋田県医学検査学会を終えて

実行委員長 伊藤 晃

第39回秋田県医学検査学会を11月7日に湯沢ロイヤルホテルにて開催いたしました。「新たな歩み～必要とされる検査室へのアプローチ～」をテーマに、一般演題発表23題、ランチョンセミナー4企画、レクチャー4企画、諏訪部教授の特別講演、沼倉氏の公開講演、そして高校生の職業体験等を開催したわけですが、御陰様で当初の予想を上回る250名の参加のもと盛大に学会を開催できましたことに心から御礼を申し上げます。

特に一般演題数は運営側の心配をよそに23題もの多数の応募があり、また発表に対しても貴重なご意見、熱心なご質問など非常に充実した討論がなされたと思います。

諏訪部教授の講演にもありましたように私たち臨床検査技師が検査の説明・相談を実施することや、診療の補助としての患者さんからの検体採取が可能になったことなど臨床検査技師がチーム医療の中で担うべき役割は広がってきています。臨床検査技師の可能性をさらに発展させるためには、昔からの慣例にとらわれることなく、臨床検査技師の新たな価値を高めた上での医療への参画が必要かと思われます。今回の学会がその「新たな歩み」のきっかけになればと思う次第です。

最後になりますが、今学会開催にあたり御協力いただいた関係各位の皆様にご心から感謝申し上げます。



学術奨励賞

深井 聡子

秋田県総合保健事業団 児桜検査センター

デビュー賞

岩谷 俊平

秋田赤十字病院

佐々木 良幹

地域医療機能推進機構秋田病院

鎌田 尚未

秋田大学医学部附属病院

芳賀 達希

市立角館総合病院

野 荒 基

秋田厚生医療センター

片野 育衣

平鹿総合病院

中島 聖子

能代厚生医療センター

両角 敬史

秋田病理組織細胞診研究センター

高階 澄子

大曲厚生医療センター

平成27年度

環境・保健事業功労者知事表彰

遠藤 正志 前副会長(由利組合総合病院)が「平成27年度 環境・保健事業功労者知事表彰」を受賞されました。

おめでとうございます。



第39回秋田県医学検査学会に参加して



木曾 里菜

秋田赤十字病院

春から新社会人として秋田赤十字病院で勤務し、生化学・免疫検査を担当しております。春に比べると機器の管理や検査値の見方などの知識が身につけてはいますが、まだまだ分からないことだらけで日々奮闘しております。

初めて参加した県学会では、自分の担当している部門の発表はありませんでしたが他の部門の発表を通して精度管理の大切さや、他職種との連携の取り方などを学ぶことができました。また特別講演では、今臨床検査技師が目指すべき「検査説明」の具体的な取り組みについて教えていただき貴重な時間となりました。「検査説明」と一言で表しますが、説明できるようになるためには、1つの項目だけでなく関連する項目も含めて説明できるようになる必要があります。

私もそのような技師を目指すために、まずは担当している生化学・免疫検査の項目について正確な検査結果を報告し、結果から病態を考えたり、それに対する改善策まで考えたり、視野を広げていきたいです。

第39回秋田県医学検査学会に参加して



柿沼 弘樹

大曲厚生医療センター

今年より臨床検査技師となり、初めて秋田県医学検査学会に参加させていただきました。一般演題では、大変参考になる事例や新たな取り組みの報告など今後活かせる興味深い内容ばかりでした。改めて他部門との関わり的重要性を感じ、学会を通して多くの刺激を受けより一層向上心を持って仕事をしていかなければならないと気持ちが引き締まりました。

懇親会では多くの病院や企業の方とお食事をしながら情報交換など交流を図り楽しい時間を過ごすことができました。

私は入社以降日常の業務だけで精一杯の日々を送っていましたが、今回の学会で同期の方も演題発表をされていて、自分も技師として今後学会で演題発表できるようにレベルアップを目指し現状に満足せずに勉強していかなければならないと感じています。

県学会演題発表へ

ー学術賞審査委員会談議よりー

県南開催の第39回県学会への参加お疲れ様でした。盛会な学会でありながら学術賞の該当なしは水を差すような形になりましたことをお詫びいたします。各方面より色々な意見を頂き、審査の責務の重さを感じているところです。

ところで学術賞は演題内容の学術の度合いを評価し賞を授けるものであり、学会賞とは異なることをご理解いただきたいと思います。

以下、発表に対して気になったポイントを挙げますので参考にしてください。

(尚、すべての演題発表にあてはまるわけではありません)

- ① 話しことばと書き言葉は別。(スライドの文章化は止めて簡潔に表す。そのまま読んでいる演者が見受けられた)
- ② タイムオーバーは減点。(たくさん話したいのはわかりますが伝えたいことを時間内に話す)
- ③ 機器や試薬検討は基礎的検討よりもう一步自分なりに踏み込み、新しい知見を報告。
- ④ 質問に対応できるようにシュミレーションしておく。(座長と事前打ち合わせも必要)
- ⑤ 最後のスライドの「ご清聴ありがとうございました」は必要なし。講演ではないので変です。
- ⑥ 利益相反(COI)開示スライドを入れる。(開示が義務付けられています)
- ⑦ 全国的学会規模の素晴らしい発表を参考にする。(多くの学会に参加しましょう)
- ⑧ 発表の次は論文にしましょう。(岩手医科大学医学部教授 諏訪部先生の一言)

まだ色々あるのですが、良い点もたくさんありました。特に今回も新人さんの発表が素晴らしかったです、内容が伝わってきました。今後へさらなる期待をします。

これからも秋田県医学検査学会をはじめ各種学会へたくさんの演題発表をお願いします。

秋臨技副会長(学術部門担当)

佐藤 尚之

第29回「検査と健康展」を終えて

秋田赤十字病院

横山 一二美

日本臨床検査技師会（以下日臨技）は、毎年11月を「臨床検査と健康・普及月間」と定め、2013年から全国で「検査と健康展」を開催しており、当技師会は11月15日（日）に開催した。当日はあいにくの雨模様であったが、8時30分に実務委員が「アルヴェ」に集合した時にはすでに10人くらいの市民が会場に集まっていた。「開始は10時過ぎになりますよ」と声をかけたが、「どうしても頸動脈エコーを検査してもらいたいのので待っています。」との返事。この企画が市民の方々にしっかりと浸透してきていることを感じ、うれしく思うと同時に10時15分開始に間に合うように会場作りをしなければならぬ緊張を覚えた。市民・県民を対象として臨床検査の普及・啓発が目的のこの企画は秋田県臨床検査技師会としては地域保健活動事業部の行事として第29回となる。

今回の「検査と健康展」も昨年と同様、日本臨床検査専門医会から派遣していただいた2名の医師による検査結果説明・健康相談と、恒例になった保健師の健康相談を実施した。また、日臨技から臨床検査の認知度を高めるために、学童期や青年期の若い世代に臨床検査の世界や臨床検査技師への興味を持っていただくための企画を取り入れるようにとの指示があり、従来の検査の他に職業紹介コーナーを設けた。

実行委員、各社メーカー及び業者のみなさんのおかげで、約1時間で準備が整い、10時15分には予定通り開始することができ、この場を借りて心から感謝申し上げたい。

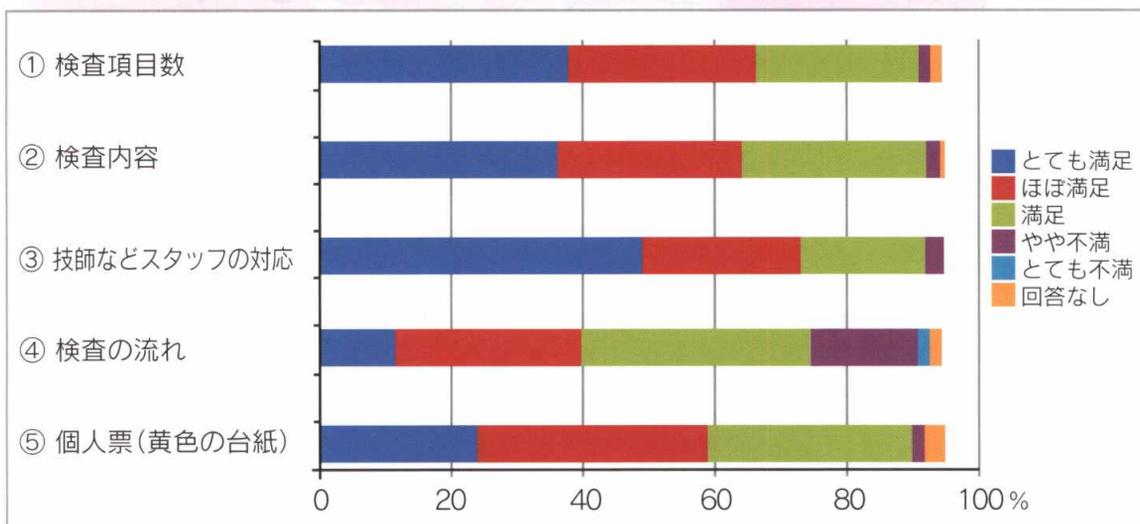
今年は太田理事の発案で、各ブースに番号札を準備し、検査の順番が来たらその番号を受け取り、それを掲示する方法で始めた。この運用が来場者にとってそれぞれのブースの進行状況を知ることができ、好評で順調に進行することができた。

おかげさまで来場者数153名、震災復興支援事業としての招待者は14名。検査項目ごとの内訳は ①体脂肪・骨密度・簡易Hb測定・血圧は希望者全員②血管指標検査(API,AVI)約135名③頸動脈エコー約120名④呼吸機能検査約120名⑤血糖・HbA1c約120名⑥医師による結果説明約65名⑦保健師による健康相談約70名であった。



これらの満足度等については次に示すアンケート結果を参照していただきたい。

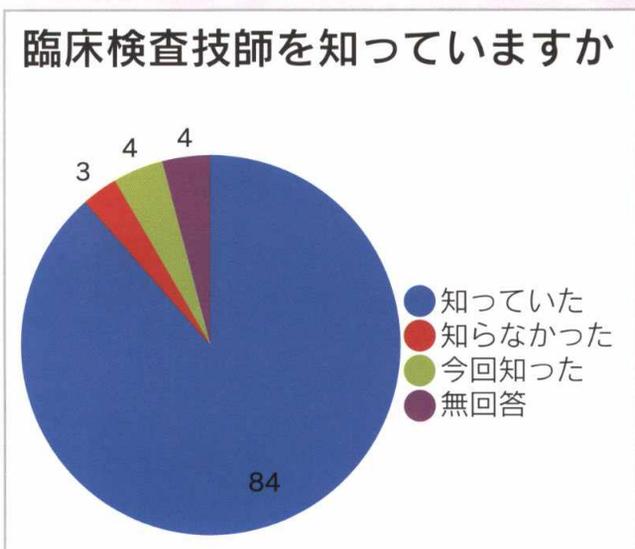
(95枚のアンケート用紙を回収。質問①検査項目数はいかがでしたか?②検査内容はいかがでしたか?③技師などスタッフの対応はいかがでしたか?④本日の流れはいかがでしたか?⑤個人票(黄色の台紙)はいかがでしたか?)



検査項目、検査内容などについては90%以上の方が満足しており、今まで課題だった検査の流れについても番号札の運用で75%の方が満足と回答していた。

検査を終えた希望者には技師も同席して「医師による結果説明」を行った。担当医師から臨床検査技師の力を示す上でとてもよかったと評価をいただき、さらに来年度に向けて次のような提案があった。“「技師・医師が結果を説明」とし、技師が説明を行い4ブースほど設置する。医師は困った時や技師の話し方に問題がある時に口を出す。また、以下の3点に考慮した説明書を作成する。①検査そのものの意味を正しく知ってもらう。②市民の受診行動が適切かどうかについてアドバイスする。③基準よりどの程度ずれているかの情報を伝える。”

実行委員にもアンケートをお願いし貴重な意見をいただいた。これらを参考にして次回に向けて説明書を作成したいと考えている。



最後に臨床検査技師の認知度についてのアンケートではこの結果からは臨床検査技師の認知度は高いことが窺えるが、来場者はリピーターが多いので若い世代へのアピールについては更なる工夫が必要と思われた。

概ね順調に進んだ「検査と健康展」、来年度の課題も見えた。

今後も県民・市民の期待に応えるように取り組み、臨床検査技師の知名度アップに繋がるなる企画をしていきたいと思う。

青年海外協力隊に参加して

市立秋田総合病院
伊藤 浩介

皆様初めまして、地方独立行政法人・市立秋田総合病院臨床検査科の伊藤浩介と申します。今回、日本国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊派遣プログラムに参加させて頂く機会を得て、臨床検査技師としてアフリカ・モザンビーク共和国でボランティア活動を行って来ましたので、その内容について報告します。

モザンビーク共和国の主な概況ですが、アフリカ大陸南東部の沿岸地域に位置し、国土は日本の約二倍、その中に2300万人程の人々が暮らしています。平均寿命は約51歳と若く、逆にHIV感染率が11.5%と高くなっています。公用言語はポルトガル語です。

活動概要は、期間は2013年から2015年の2年間、場所はモザンビーク共和国の首都であるマプト市、配属先はマプト医療従事者養成学校の臨床検査技師学科でした。



採血実習授業風景



尿検査学・授業風景



モザンビーク地図

活動内容は配属先の教員として寄生虫学・検査入門学・尿検査学・血液検査学の授業を実施、また学内実習室使用に向けて器具室の使用可能機材の選定と整備、実習室内レイアウトの作成と各機材の配置を実施し、管理運営方法を同僚教員に伝達しました。

講義では特定の教科書が無い為、派遣国の医療事情に即した授業を目的として授業内容をパワーポイントで作成し、授業を行いました。実習室整備では、使いやすい実習室を目標にレイアウトを作成・各機材配置場所を明記し、整理整頓が苦手な現地同僚が保管・管理がしやすいよう実施しました。現地同僚と共に行ったため、ボランティアがいなくなった後も継続的使用が期待出来ると思われます。



最後の授業で検査学科の生徒と



生徒が開いてくれた送別会で学級委員長と



小学校のサッカー教室

活動当初は語学力不足からくるコミュニケーションの問題や文化の違いによる認識のズレ等で思ったような活動が出来ない時期もありました。特に赴任半年は授業も無く、現地同僚との信頼関係も築けていないため何も活動らしい事が出来ず、モザンビークに来た事自体を疑問に感じる事もありました。その時期に私を支えてくれていたのが、生徒と共に活動していたサッカー部や休日に小学校で行ったサッカー教室でした。一見すると関係がないようにも思えたその活動が、モザンビークの人々を理解していく上でとても大切な時間となりました。そのような中で時を重ね、現地同僚と同じ立場で共に働く事で、彼らの抱える問題やニーズ、その背景にある原因を理解し、彼らのペースに合わせた解決法やアプローチが出来たと考えられます。



キリマンジャロ山頂から望む氷河と雲海 モザンビークの自然・ジンベイザメ 大自然の動物・ヌーの大群

この2年間の間にモザンビーク人を始め多くの国の人と出会い、考え方や価値観の違いを聞く機会を得ました。確かに人種や文化、生活環境や経済状況も異なる人々の中、1人で活動を行う事は容易ではありません。ですがその違いを超えても人と人の心は伝え合える事、そして私がいる場所と世界は繋がっている事を実感として教えて頂きました。帰って来てからは、世界で起きている事を今までより身近に感じる様になりました。

今は、私も生徒も卒業式でまた逢える日を心待ちにしています。

また先進国の援助スキームとして物資の援助のみに留まらず、その使用法や管理法を伝達する事、特にお互いの顔が見える関係での活動も大切な支援であると思われました。

モザンビーク共和国政府は医療水準改善の為に医療従事者数の増加を政策の1つとしていますが、医療器材や人材の不足といった問題を抱えている為、日本を含め各国からの物資供給や技術サポート等の国際医療支援を受けています。日本のような医療先進国で教育と技術を習得した臨床検査技師による技術支援のニーズは高まっており、今後も継続的な支援が必要であると考えられます。



世界三大瀑布の一つ、ビクトリアホール



マサイ族の人々



モザンビークの少年

編集後記



今年度の県学会は湯沢で開催され、私も参加しましたが大盛況でした。関係者の皆様お疲れ様でした。

また、地元の美味しいお酒と料理をたくさんご馳走になり大変満足いたしました。

今年は参院選もあり技師会も大忙しですが、皆さん健康には気をつけてがんばりましょう。

(市立秋田総合病院 渡辺 義孝)